

第32回中日理論言語学研究会
20130113 同志社大学大阪サテライト

きもち欠乏症

定延利之
sadanobu@kobe-u.ac.jp
神戸大学

言いたいこと1

- ことばの自然さ～不自然さを律する原理の中には、これまで知られていないものがある。
- 現代日本語の或る種のことばは、「きもちが或る程度現れていなければ不自然になる」という理屈(但しきもちの強さではない)で自然になったり不自然になったりする。

2

ことばの自然さ～不自然さの原理

- 発音可能性
??bdgbg
- ことばの組み合わせ可能性
旅行するのが好きです。
- 状況との組み合わせ可能性
[人と会って] さようなら。

きもちの現れが足りている～いない

- 第1発話としての「形容詞+コピュラ」
- 「動詞+コピュラ」
- 「名詞+コピュラ」
- 発話現場に依存する「辞の文」
- 声に出して読めない日本語

第1発話としての「形容詞+コピュラ」

- (1) これまで久しく問題となっていた形容詞の結び方——たとえば「**大きい**です」「**小さい**です」などは、平明・簡素な形として認めてよい。 [原・三宅・福田 1952: 18]
- (2) 言うまでもなく、「**危ない**」という形容詞に直接「**です**」を付けるのは誤用だ。
[http://d.hatena.ne.jp/kanimaster/20091022/1256217225, 最終確認日: 2013年1月10日]
- (3) よく次のような言葉を耳にしますが、これは言葉の使い方として正しいのでしょうか? 「**楽しかった** **です**。」(質問者: newnewpc 質問日時: 2008/12/13 05:34:15)
[http://okwave.jp/qa/q4551510.html 最終確認日: 2013年1月10日]

第1発話としての「形容詞+コピュラ」

- (4) a.(?) **ずずしい**です。
b. **ずずしい** **です**ねえ。
c. **ずずしい** **です**うー。
- (5) a.?? **ずずしかった** **です**。
b. **ずずしかった** **です**よー。
- (6) a.?? **赤い**だ。 (7) a.?? **赤い**じゃ。
b. **赤い** **だ**ろう。 b. **赤い** **じゃ**ろう。
c. ? **赤い** **だ**よ。

「動詞＋コピュラ」

- (8) a. *行くじゃ。
b. 行きますじゃ。
(9) a. ??困るだ。
b. 困りますだ。
c. 困るだよ。
(10) a. ?行きますです。
b. 行きますでしょう？
c. ??行くですじゃ。
d. ?行きますですじゃ。

いくつかの実例

- (11) みんなの「夢」を育てるお手伝いを**していき
きますですー**
[<http://www.mayumaro.jp/profile>, 最終確認日: 2012年9月18日.]
(12) お姉ちゃんが、新聞の使い方を**まちがえて
いますです**
[http://woman.excite.co.jp/blog/animal/sid_1481911/, 最終確認日: 2012年9月18日.]
(13) **ほんとにまさにいろいろ聴きますですよ。**
[<http://theinterviews.jp/yeye/4359545>, 最終確認日: 2012年9月18日.]

「名詞＋コピュラ」

- (14) a. ??雨**だった**です。
b. 雨**だった**ですよ。
c. 雨**だった**ですか。
d. 雨**だった**でしょう。

発話現場に依存する「辞の文」

- (15) a. ??**だ**。
b. **だなあ**。
c. **みたいだね**。
(16) a. ***か**。
b. **かなあ**。
(17) a. ?**です**。
b. **ですなあ**。
(18) [黙って現物を示した相手に]
a. ??**だろう**。(下降調) わかってたよ。
b. **だろうなあ**。(下降調) わかってたよ。
c. **だろう?**(上昇調) わかってたよ。

声に出して読めない日本語

- (19) a. 晩ご飯, どうしますか?
b. **晩ご飯**, どうしますか? ←書きことばのみ。
c. 晩ご飯は, どうする?
d. 晩ご飯**だけ**ど, どうするの?

左方転位(これは話しことば的現象)

- (20) *A Roberto l'ho fatto aspetta' un'ora.*
to Roberto_i him_i (I) made wait an hour
"Roberto, I made him_i wait for an hour."
[Duranti and Ochs 1979: 377.]

声に出して読めない日本語の類例

- (21) **一九六六年の春のウィーン**, それがブリュー
ゲルとの最初の出会いだった。
[中野孝次『ブリューゲルへの旅』2004.]
cf. 一九六六年の春のウィーンがブリューゲ
ルとの最初の出会いだった。
(22) **クリスマスの夜に**, 彼とそう約束して別れた
んだ。
(23) **より速く, より快適に**—そう考えてきたのが
これまでの輸送会社だ。

『アナウンサー』『講談師』の情景語り

(24)大きな卓上には、しゃぶしゃぶ用のロース肉、三枚肉が大皿に供された。薔薇色の赤身肉は澄み、脂肪の白はつややかに輝いている。さっと熱湯にくぐらせて口に運ぶ。噛むたびに甘い肉汁がほとぼしる。何と豊かな味。見事なばかりの甘みとうまみの融合。豚のうまみは脂肪にある、と我那覇さん。しかもその脂肪は意外なほどに軽やかなのだ。

[大内侯子「沖繩・我那覇畜産やんばる島豚」『ひととき』2005年8月号, pp. 50-51.]

(25)ところが客の一人、五十がらみで、ひげもじゃ、垢で黒くなった着物をきたおやじが急にそわそわしました。・・・(中略)・・・何か物を失くしたらしい。・・・(中略)・・・やっとおやじが言った失せ物とは「アイ、蛇が一匹なくなり申した。」さあ船中大さわぎ。総立ちになって探すと板子の下にとぐろを巻いている。

[中西進「東海道中膝栗毛を読む 海上で暴露した刀の正体」『ひととき』2005年8月号, p. 49.]

言いたいこと2

- 話しことばは書きことばと比べて、構造が単純で断片的と考えられている。
- 「声に出して読めない日本語」が示しているのは、話しことばの構造は書きことばの構造に比べて、必ずしも単純で断片的ではないということ。きもち欠乏症を避けるなら、話しことばは、より複雑な構造でも厭わない。

14

話しことばと書きことば

文字言語 — 文字言語的言語 = 書きことば
無文字社会の一部の発話など
Chafe (1982)

- 音声言語 — 気ままな手紙など Ochs (1979)
音声言語的言語 = 話しことば

言いたいこと3

- きもちの原理によって自然さを変える、以上のことばは、文末に関わっている。(cf. 森重 1959; 今井 1968)
- 発話のリソースを「文」だけでなく「語」「節」にも認め、これまでの「文文法」の多くを「(主)節文法」に位置づけ直すべきか。

謝辞

本発表は、乙武香里氏との共同研究の成果を含んでいる。本発表は、日本学術振興会の科学研究費補助金による基盤研究(A)「状況に基づく日本語話しことばの研究と、日本語教育のための基礎資料の作成」(課題番号: 24652092, 研究代表者: 定延利之)の成果の一部である。

17

文献

- Chafe, Wallace 1980 *The Pear Stories: Cognitive, Cultural, and Linguistic Aspects of Narrative Production*. Norwood: Ablex Publishing Company.
- Chafe, Wallace L. 1982 "Integration and Involvement in Speaking, Writing, and Oral Literature." In Deborah Tannen (Ed.), pp. 35-53.
- Chafe, Wallace 1987 "Cognitive constraints on information flow," In Tomlin, Russell S. (ed.), *Coherence and Grounding in Discourse: Outcome of a Symposium*, Eugene, Oregon, June 1984, Amsterdam; Philadelphia: John Benjamins Publishing Company, pp.21-51.
- Clancy, Patricia 1982 "Written and spoken style of Japanese style," In Tannen, Deborah (ed.), *Spoken and Written Language: Exploring Orality and Literacy*, Norwood: Ablex Publishing Company, pp. 55-76.
- 今井文男 1968 『表現学仮説』法律文化社。
- 森重敏 1959 『日本文法通論』風間書房。
- 定延利之 2005b 『ささやく恋人、りきむレポーター—口の中の文化—』岩波書店。
- 定延利之 2011 『音声コミュニケーション』葦岡隆志(編)『はじめて学ぶ日本語学: ことばの奥深さを知る15章』pp. 170-184, 京都: ミネルヴァ書房。
- Tannen, Deborah. 1980 "Spoken/written language and the oral/literate continuum." *Proceedings of the Sixth Annual Meeting of the Berkeley Linguistics Society*, pp. 208-218.
- Tannen, Deborah. 1982 (ed.) *Spoken and Written Language: Exploring Orality and Literacy*. Norwood, NJ.: ABLEX.

18